

# 第6節 美 術

## 第1 本資料の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、埼玉県中学校教育課程編成要領の趣旨及び内容に基づき作成した。また、生徒、学校及び地域の実態に即し、指導計画に基づく学習指導を展開する際の具体的資料となるよう構成について配慮した。

美術科の目標を達成するために、創意工夫ある表現及び鑑賞の指導を実践する参考資料として教育課程編成要領と併せて大いに活用されたい。

### 2 取り上げた内容

本資料では、教育課程編成要領の第3の「2 年間指導計画例」で示した題材を中心に、小学校図画工作との関連や系統性、描く活動とつくる活動のバランス等を考慮した内容を取り上げるとともに、計画例ごとに「計画立案のヒント」を設け、教材研究の参考となるよう工夫した。また、今回の改訂方針を踏まえ、美術館との連携による鑑賞学習や日本の伝統美術を生かした活動、共同で行う創造活動等を取り上げている。

表記に関しては、「共通事項」を「指導上の留意点」欄に〔共〕の略記号を付けて示した。「評価と手立て」欄では、「評価の観点」を〔関〕や〔発〕、〔創〕、〔鑑〕の略記号で示すとともに、「評価規準」を示し、「評価方法」を【 】内に示した上で、評価を踏まえた指導の手立てを明確に記述することとした。また、「生徒の実態」及び「学習指導要領上の位置付け」については、紙面の都合もあり一部省略している。

なお、指導計画例で示した形式は、美術科における指導案の標準的な形式として参考にされたい。

### 3 実践化への配慮事項

常に学習指導要領に示されている美術科の目標及び内容と照らし合わせ、美術科で育てるべき能力や態度を重視した実践が求められる。改訂の主旨を踏まえ、表現や鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わわせ美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かに働かせて美術の基礎的な能力を伸ばし、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを重視したい。

教科目標の達成を通して生徒個々の全人的な成長を図るには、各学校の特色や生徒の実態を踏まえて指導内容を充実させるとともに、生徒の美的体験を豊かにし、創造的な造形活動の能力を高めるための教材の開発や指導方法の工夫改善が必要である。本指導資料をそのための一助として活用いただきたい。

また、実践に当たっては、作品の感想を文章にまとめたり、友人との意見交換や批評会を行ったりするなどの言語活動を重視し、「共通事項」を生かして形や色彩などに関する言葉を用いながら自分の考えをまとめられるように指導することが大切である。

## 第2 指導計画作成のための資料

指導計画の作成に当たっては、学校教育目標と美術科の目標との関連を明らかにして、生徒の学習経験や能力、発達特性等に配慮し、内容相互の関連を十分に図った学習が展開されるよう各学年の目標や内容、材料体験等の系統性を図るとともに、小学校図画工作科との関連を十分踏まえるようにすることが必要である。

### 1 指導計画作成の手順・留意事項

- (1) 各学年の表現及び鑑賞の目標と〔共通事項〕の関連を十分に図り、各学年の目標や指導の重点を明らかにする。
- (2) 各内容のねらいを達成するための適切な題材を設定するとともに、各内容の調和を考えて授業時数を配分する。
- (3) 教育課程編成要領の資料（指導内容の系統表、配慮事項、年間指導計画例）及び本指導資料を参考にする。
- (4) 生徒の発達の段階や内容の系統性、小学校図画工作科や道徳の時間などとの関連を踏まえ、題材の配列を工夫する。
- (5) その他の留意事項

ア スケッチや映像メディアを積極的に活用する。また、生徒の表現の能力を一層豊かに育成するために、漫画やイラストレーション、図などの多様な表現方法を学習する機会や、共同で行う創造活動を取り入れる。

イ 知的財産権や肖像権などに配慮し、自己や他者の創造物等を尊重する態度の形成を図るようにする。

ウ 事故防止のための安全指導について指導計画の中に留意事項を設ける。

エ 生徒が随時鑑賞に親しむことができるよう、校内の適切な場所に鑑賞作品などを展示する。

## 2 指導計画例

**指導計画例 1** 【第1学年】A表現 (1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動  
(3) 発想や構想したことなどを基に表現する活動（技能に関する事項）

### 1 題材名 「マイアングル」ー遠近法を学ぶー（関連：「編成要領」年間指導計画例第1学年題材『広がりのある風景』）

#### 2 題材について

##### (1) 生徒の実態

生徒は、明るく活発で、物事に対する興味・関心が高く、意欲的に取り組むなどの長所が見られる。各種調査により、基礎的・基本的な知識・技能の定着は概ね満足できる状況である。また、居住している地域にかかわらず生徒たちの生活は都市化しており、自然の中での体験が少なくなっている。

##### (2) 本題材を指導するに当たって

生徒は、小学校図画工作科「いつも見ている風景を」（5年生）で、スケッチや風景画に親しむとともに、生活する場で見つけた美しい風景や愛着のある場所を、自らの思いを大切にしながら表現する題材に取り組んだ。本題材はその発展として、「視点」の工夫や効果的な遠近法の活用により、自らの思いをより明確に表現しようとするものである。

構想に当たっては、「見上げる」、「見下ろす」、「遠くから眺める」、「近くに寄って見る」など、「視点」を明確にするとともに、自分が感じたことや思いが鑑賞者にストレートに伝わるように構図を工夫する。また、興行を表現するため、西洋絵画に代表されるような透視図法を中心とする線遠近法や、日本やアジアの絵画に見られる空気遠近法や鳥瞰図遠近法などについて学習し、自分の表現意図に合わせて選択できるようにする。

制作に当たっては、風景の中に身をおき、諸感覚を生かして、風を感じ、臭いをかぎ、季節を感じ、その場の音を聴きながら、それを豊かに形や色彩、イメージに置き換えて表現できるようにさせたい。そのため、授業時数や学校や地域、生徒の実態に合わせ、できるだけ戸外で制作できるようにする。また、水彩絵の具の基本的な使い方や基礎的な技能については、小学校における学習経験に幅があることを考慮し、必要に応じて確認しながら指導するようにしたい。

#### 3 学習指導要領上の位置付け

A 表現(1)…略 ア…略 イ…略

(3)…略 ア…略 イ…略

〔共通事項〕

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

#### 4 目標及び評価規準

(1) 目標 小学校図画工作の学習を踏まえ、水彩絵の具で自分の思いを生かして興行のある表現をする。

(2) 評価規準

- 主題を明確にするために、積極的に「視点」を工夫している。 (美術への関心・意欲・態度 **関**)
- 思いを的確に表現するために、どんな遠近法が適するか構想を練る。 (発想や構想の能力 **発**)
- 意図に応じて、水彩絵の具で形や色彩を工夫して表現する。 (創造的な技能 **創**)
- 形や色彩の特徴に視点を置き、よさや美しさを味わう。 (鑑賞の能力 **鑑**)

#### 5 指導計画（6時間扱い）

時間	1	②	3	4	5	6
過程	着想	発想・構想		制作		鑑賞・まとめ
学習活動	題材の把握	感じ取ったことから視点を覚えて構図を考え主題を生み出す	水彩絵の具の基礎的な技法を押さえ、意図に合った表現や遠近法を工夫して彩色する			鑑賞会・発表会 思いを述べ合う

#### 6 本時の学習（本時 2／6時）

(1) 目標

- 見上げる、見下ろす、のぞくなど視点を上げたり、下げたり、絞り込んだりするなど様々な構図を考える。…… **発**

(2) 準備

- 教師：見取り枠、視点の異なる参考作品、構図プリント、デジタルカメラ、プロジェクタ
- 生徒：教科書、スケッチブック、写真、鉛筆、はさみ、のり、水彩絵の具



〔見下ろした視点〕 生徒作品



〔見上げた視点〕 生徒作品



〔見渡した視点〕 生徒作品

(3) 展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点 〔共〕：〔共通事項〕に係る内容	評価と手立て 〔観点〕：評価規準、〔評価方法等〕
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の復習をする。</li> <li>○ 参考作品を見て、どこから見た図で何を表したかったのか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ場所でも目の高さ「視点」によって全く構図が変わることを理解できるように、参考作品を使って生徒に示す。</li> <li>○ 表現したいことと「視点」の関係を簡単な例を挙げて解説する。 低い視点から見上げる→木の高さの表現 高い視点から見下ろす→広々した畑の表現</li> </ul>	<p>〔関〕 意欲的に参考作品を見比べている。 【観察・表情・発言】</p> <p>◎：意欲的に教師の話聴いて理解しようとしている。</p> <p>◆：「どんなことを表したかったか」の身近な例を話しかける。</p>
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 風景の中に身を置いて気に入った心ひかれる場所を見付ける。</li> <li>○ のぞき棒やデジタルカメラを使い、視点を変えた新鮮な景色を探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒がなぜ心ひかれたのか描きたいものが何なのか、無意識に心に感じていた美しさやよさに気付くことができるよう問いかける。</li> <li>○ 生徒が風景から受け取って感じ取ったことが形や色彩の特徴となることを伝える。〔共〕</li> </ul>	<p>〔発〕 様々な視点から自分の心ひかれる景色を発見する。 【観察・表現・対話】</p> <p>◎：様々な視点からスケッチまたはデジタルカメラで写真を撮っている。</p> <p>◆：友人が撮った写真や描いたスケッチを見るように声をかける。</p>
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友人の作品を鑑賞する。</li> <li>○ 本時の活動を振り返り、自分が感じた美しさやよさは何なのか考え、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人一人が学習状況を確認できるように、楽しく心ひかれる風景を探せたか、視点がどこにあったか、形や色彩の特徴は何か振り返らせる。〔共〕</li> </ul>	<p>〔鑑〕 自分の探した景色のよさを確認する。 【観察・表情・発言】</p> <p>◎：自分の主題と友人の主題を比べ、よさや美しさをとらえている。</p> <p>◆：他の人には無いよさやがんばりをほめて次時への意欲付けをする。</p>

◎：十分満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

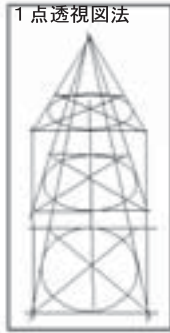
計画立案のヒント

**【様々な遠近法について】**

○ 生徒の多様な表現を引き出すために、透視図のような線遠近法だけではない様々な遠近法を提示し、生徒一人一人の資質や能力を高める制作の支援をしたい。




透視図法




1点透視図法



重なりで前後



グラデーション遠近



地平線に近い物体の方が遠く見える  
鳥瞰図遠近法



色彩遠近法




大小の遠近

**【題材の発展性について】**

○ 自分の気持ちや伝えたい内容などを他者や社会に発信する学習となるように、思いや願いを印象的な遠近で劇的に表現する。人物や静物の表現にも遠近法を使って形や色を強調し心の風景として写実を超えた心象表現をする。

○ 美術文化に対する関心を高める学習として墨絵遠近法ややまと絵遠近法を描いてみる。これらを描くことによって、東洋の遠近法を学ぶことができる。空気遠近法・逆遠近法・斜投象図法などで、遠くのは同じ大きさで上へ上へと積み重ねて描いていく。遠いものはどんどん上方へ伸びていくので、掛け軸のような縦に長い作品になっていく。

○ 彫刻表現に応用する。平面から立体表現へと発展させる。心に残る場面としての風景を粘土や彫刻材料でつくる。このときも人物の動きやものの配置をよく考え、遠近法を学んだことを生かして物語のある風景を制作する。



生徒作品



アントニア・マンテニャ作『死せるキリスト』



富岡鉄斎『蓬莱仙境図』

**【描画材について】**

○ 鉛筆・コンテ・パステル・絵の具・墨汁・ペンなど色々な材料を使って表現意図とそれに合った遠近法に適する材料を選び、表現する。

出典：『日本美術 読みとき事典』 瀬木慎一氏著 里文出版  
：『遠近法の不思議』 市村 勲氏著 <http://homepage2.nifty.com/photocell/enkin4.html>

1 題材名 「埼玉県立近代美術館に行こう」 —実物の美術作品を鑑賞する—

2 題材について

(1) 生徒の実態

指導する生徒はピカソやゴッホなどの名前は知っていても、そのような作家の作品を直接に見たことのある生徒は少ない。生徒たちのピカソやゴッホの知識は、おそらく何らかのメディアを通じて得たものだろう。従って、生徒たちの多くは作家の名前など、ある程度の情報をもっているが、具体的な作品のイメージはもっていないのがおおかたの現状である。

一方、本校では積極的に生徒作品の校内展示をしており、作品の前で足を止める生徒が多い。これは、生徒たちがもともと鑑賞すること、すなわち見ること、味わうこと、感じることに高い関心があるからと考えることができる。

このような時期に、美術館で作家の作品を鑑賞することは生徒にとって意義のある活動と考える。

(2) 本題材を指導するに当たって

本題材は、埼玉県立近代美術館における鑑賞活動を、効果的な事前指導とともに提案するものである。感受性や、世の中への関心が高まる中学1年生の時期に、実物の作品と向かい合い、作品を深く鑑賞し、広い世界につながる美術があることを知ることは貴重な体験であり、美術の基本となる学びである。その学びが充実するように、次のような活動を行う。

まず、事前指導として、主に美術館の役割、美術館の利用の仕方などを指導する。具体的な内容としては、美術館で所蔵されている作品が美術館の存在するかぎり大切にされていく文化財であること、文化財はそのものの存在だけではなく、それにまつわる出来事やつながりも含めて価値があるものであること、だから時には作品について学ぶことも重要であること、埼玉県立近代美術館は、埼玉県にゆかりのある作家と、彼らに影響を与えた県内外、国内外の作家の作品を集めるとともに、その研究を行ってきた埼玉県の県立唯一の美術館であること、などである。

次に、美術館の指導では、生徒が主体的に活動できるように、課題をもって活動させるとともに、展示作品の概要を事前に学習するようにする。また、美術館との打合せも綿密に行うようにする。まとめの指導では、美術館での活動を自由な方法でレポートとしてまとめるようにし、学習発表会を行う。

指導の工夫としては、次の内容に重点を置く。

- 興味や関心を高める複製画やアートカードを用いた事前指導  
鑑賞が正解を求める活動ではなく、自由な発想や自分の価値意識を大切にする活動であることを学ぶことができるように、アートカードを使った事前指導を行う。また複製画を使って作品を囲んで対話をする体験を行う。
- 美術館との連携  
事前に美術館と連絡を取り、美術館見学時の展示内容や関係資料を手に入れ、活用する。生徒の活動課題等を準備する。また、当日は美術館からの講話や、作品解説、マナー指導等での協力体制を整えておく。
- 自由な方法での活動報告  
美術館見学レポートの作成や発表は、強く感じたことをもとに、漫画やイラストレーションを使ったり、美術館の作品やカタログからのヒントを大切にしたりするなど、自由な発想を尊重する。

3 学習指導要領上の位置付け

B 表現(1) …略 ア …略 イ …略

[共通事項]

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

指導計画の作成と内容の取扱い

2(2) (前略) 日本及び諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館・博物館の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること。



美術館の利用心得を受ける様子

4 目標及び評価規準

(1) 目標 美術館での多様な作品鑑賞を通して美術や美術文化に対する関心を高める。

(2) 評価規準

- どの作品からも、よさや美しさを感じようとする態度で活動に参加している。(美術への関心・意欲・態度 関)
- 様々な作品から、よさや美しさを感じるとともに自分なりの価値意識をもつ。(鑑賞の能力 鑑)

5 指導計画 (3時間扱い)

時間	①	②	③
過程	事前指導	美術館で鑑賞体験	まとめ
学習活動	アートカードで作品に親しむ 複製画を使って鑑賞の方法を学ぶ	美術館の方に展示の案内をいただく 自分の課題で美術作品を鑑賞する	美術館鑑賞の成果を思い思いの方法 でまとめる。

6 本時の学習

(1) 目標 …略 (上記と同じ)

(2) 準備

- 教師：美術館との事前連絡と打合せ
- 生徒：教科書、筆記用具 (鉛筆)、アートファイル



解説を受ける様子



グループ活動の様子

(3) 展 開 (※鑑賞体験での事前指導の重要性を鑑み、題材全体の展開を示す)

過程時間	学 習 活 動	指導上の留意点 (【共】：【共通事項】に係る内容)	評 価 と 手 立 て 【観点】：評価基準、【評価方法等】
事前 50分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞の学習の目的と内容を知る。</li> <li>◎ 自分の感じ方を作品の鑑賞や仲間との交流により豊かにする。</li> <li>◎ 美術館で地域にゆかりのある作家の作品を鑑賞したり展覧会を楽しみ美術文化を体験する。</li> <li>◎ 豊かになった感性で身近な生活からもよさや美しさを見付けることができるようになる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アートカードや複製画鑑賞で作品に親しむ体験をする。</li> <li>○ 班で見学時の活動課題を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前に美術館の教育普及担当と打ち合わせを行い、指導内容の共通理解を行い、それに基づいた目的と内容を指導する。また、必要な資料やツールを借用しておく。</li> <li>○ 事前の活動において、主な埼玉の作品を見て親しみをもてるように、アートカードや複製画などを活用する。</li> <li>○ アートカード等の事前の活動で、形や色彩やイメージにも注目させる働きかけをする。【共】</li> <li>○ 班の活動課題には、形や色彩やイメージの視点を示す。【共】</li> </ul>	<p>【関】 美術館や作品鑑賞に関心をもつことができる。【観察・表情】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：美術館のことを積極的に知ろうとしている。主体的にアートカードや鑑賞体験に取り組んでいる。</li> <li>◆：美術館が魅力的な場所であることを具体的な資料を示したり、楽しい美術館体験などの話題を提供したりするなどして興味や関心を高める。</li> </ul>
美術 館で 鑑賞 体験 70分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 美術館見学の心得を知る。</li> <li>・はじめの会を行い、美術館見学の心得について理解する。</li> <li>・活動の流れや集合時間、集合場所、緊急時の対応等を確認する。</li> <li>○ 主な作品についての解説を聴く。</li> <li>・グループごとに作品の解説をお願いし、必要な内容は記録をとり、次の活動に生かせるようにする。</li> <li>○ 班の課題で作品を鑑賞する。</li> <li>・班ごとに課題別の鑑賞を行う。</li> <li>○ 見学のまとめをする。</li> <li>・まとめの会を行い、見学の成果を発表し、感謝の気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 入館前に美術館の外ではじめの会を開き、美術館見学の注意事項を確認させるとともに、活動への意欲が高まるようにする。また、解説の際のグループ、その後の班活動の班を確認しておく。</li> <li>○ 教員はマナーを守ることができるように生徒を適時に指導する。</li> <li>○ 班活動では、各班の活動課題に従い、作品の印象だけでなく、形や色彩、イメージの視点でも作品を鑑賞する。【共】</li> <li>○ 美術館の外でおわりの会を開き、気持ちの切り替えをさせ、次時までの課題を確認する。</li> </ul>	<p>【関】 美術館での活動に目的意識をもち主体的に楽しんでいる。【観察・表情・記述】</p> <p>【鑑】 様々な視点で作品を味わう体験をすることができている。【観察・表情・記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：解説に一生懸命に耳を傾け、作品には集中して観察し、読みとろうとする態度で活動をしている。作品についての仲間との会話を楽しんでいる。</li> <li>◆：教師が生徒の間に入り、作品についての会話が充実するように指導をする。基本的には、どんな意見も受け入れ、すべての生徒の感じたことを大切にし、感じたことや話したことに自信をもたせるようにする。</li> </ul>
まとめ 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 美術館見学で学んだことをもとに鑑賞体験のレポートをまとめる。</li> </ul> <p>※ 後日保護者会等で展示発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感動が鮮明なうちにレポート作成に取り組むことができるようにする。その際、レポートには、強く感じたことをまとめられるように、漫画やイラストレーションを使ったり、美術館の作品やカタログからのヒントを大切にしたりするなど、自由な発想を尊重した助言をする。</li> </ul>	<p>【鑑】 強く感じたことをレポートに表すことができる。【観察・表情・記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：明確に表すことができる。</li> <li>◆：今後の課題を明確にできるよう、内容に共感する指導を行う。</li> </ul>

◎：十分満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

計画立案のヒント

【美術館との連携について】

- どの美術館でも利用には打ち合わせが必須である。できるだけ早いうちにその美術館の教育普及担当に連絡をする。担当からは、美術館のこれまでの学校の利用の状況や、活用事例などを紹介してもらえるほか、美術館によっては、具体的な鑑賞プログラムや資料を提供してくれるところもある。また、見学当日は、学校と美術館の役割分担を明確にすることにより、大きな教育効果が期待できる。

主な問い合わせ先 □埼玉県立近代美術館 048-824-0111 □うらわ美術館 048-827-3215  
□川越市立美術館 049-228-8080 □川口市立アートギャラリー・アトリア 048-253-0222

【鑑賞ツールについて】

- 埼玉県立近代美術館では、収蔵品や展覧会のワークシートが豊富なほか、埼玉アートカード、複製画貸し出しシステムなどがある。美術館のホームページで詳細がわかる。

【鑑賞方法について】

- 対話型鑑賞が注目を集めている。作品を見て自由に思い浮かんだことで対話をしながら鑑賞をする対話型鑑賞では作品についての知識があるかどうかは問題としていない。しかし知識が不要といっているわけでもない。子どもたちが現在もっている知識や生活経験で蓄積した感性を総動員して作品と向き合い、自分なりの価値を創造することが大切である。この内容を押さえれば鑑賞方法としては有効な方法の一つといえる。
- 子どもたちには年齢が上がるにつれて、作品の本質よりも作品の値段や一般的な価値について関心をもつ場合がある。興味があることを否定せず、なぜ、そのような値段や価値があるのかを考えさせるのも一つの方法である。

【(共通事項)の指導について】

- 作品を鑑賞する際、形や色彩の特徴などを基にイメージをとらえることができるように、ワークシートの様式等を工夫するとよい。

**指導計画例3**

【第1学年】A表現 (1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動  
 B鑑賞 (1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動

1 題材名 「写し取る形—凹凸いろいろ」—版による表現の楽しさを学ぶ—

(関連：「編成要領」年間指導計画例第1学年題材『描いて写して』)

2 題材について

(1) 生徒の実態 …略

(2) 本題材を指導するに当たって

生徒は、小学校図画工作科「ほって、刷って、またほって」(5年生)で、彫り進み木版画や版画用具を工夫してのローラーワークや彫刻刀の扱いを学習した。また、「糸のこドライブ」では、合板を電動糸のこ盤で切ることも学んだ。本題材では、それらの体験を生かして、版による表現を楽しみながら、自ら感じ取ったことや考えたことを表現させたい。

版による様々な表現は、その意外な効果や美しさに驚きや感動がある。版の特徴を生かして、面白そうだなと思った版種を試したり、版の材質を変えてみたりしながら、どうしたら自分の主題に合った版になるのか、発想や構想をめぐらせながら、楽しく学習させたい。また、小学校図画工作の造形遊びでの体験を振り返りながら、彫る、ひっかく、切る、貼り付けるなどの行為と自分の思いを結び付けて豊かに表現するとともに、版の質感に自分の表したい感じを重ね、イメージや感情をふくらませていくようにする。

多色版画では色彩の重なりから重色の効果学ぶこともできる。版全体に同じ色を重ねるのではなく、版を彫ったり版に穴を開けたりして重ねると、色が重ならない部分もできるが、その部分は、重なった部分との対比で色彩がより鮮やかに響き合う。こうした効果を確認し、小学校で学習した混色と比較しながら説明すると理解させやすい。これらの学習を基に色彩感覚を高めたり、色を重ねる順番や組み合わせを工夫したりするなど、見通しをもって制作できるようにさせる。

3 学習指導要領上の位置付け

A 表現(1)…略 ア…略 イ…略

B 鑑賞(1)…略 ア…略

〔共通事項〕

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。



4 目標及び評価規準

(1) 目標 小学校の学習をふまえ、形や色彩のもたらす感情を理解し、見通しをもって十分に版の特徴を生かした表現をする。

(2) 評価規準

- 版で写し取られた形のおもしろさや意外さを発見しようとしている。 (美術への関心・意欲・態度 **関**)
- 主題を明確にするために適切な版は、どんな版種なのか積極的に構想している。 (発想や構想の能力 **発**)
- 形や色彩の重なりを考え、見通しをもって制作する。 (創造的な技能 **創**)
- 形や色彩・質感の特徴に視点をおき、よさや美しさを味わう。 (鑑賞の能力 **鑑**)

5 指導計画 (6時間扱い)

時間	1	②	3	4	5	6
過程	着想	発想・構想	版づくり		刷り	鑑賞・まとめ
学習活動	題材の把握	自分の主題にあった版を選び どう表現するか考える	版の色彩・刷る順番・版の質 など見通しをもってつくる		意図に合わせて用具 を工夫して刷る	鑑賞会・発表会 感想を述べ合う

6 本時の学習 (本時 2 / 6時)

(1) 目標

- 版の材料や参考作品から自分が気に入った形や色のイメージを想像し、版の効果を試し刷りする。 …………… **発**

(2) 準備

- 教師：版の参考作品とそれを刷った作品、版画用具一式
- 生徒：教科書、自分で見つけた版になる材料



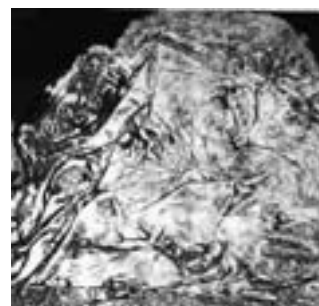
《釘で打った作品》  
生徒作品



(拡大)



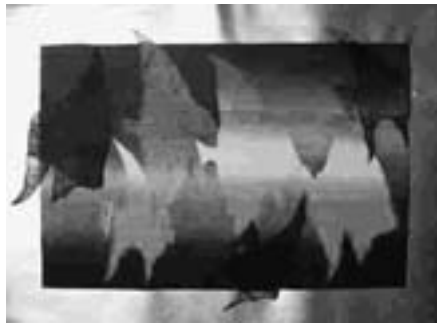
《紙のしわの作品》  
生徒作品



(拡大)



《シダの葉っぱとつまようじで抽象表現》  
生徒作品



《ベニヤをエンゼルフィッシュの形に  
電動糸のご盤で切って》 生徒作品

→ 《ギターで奏でる音楽を表現》  
木版エッチング（凹版）刷りで 生徒作品



### (3) 展 開

過程時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 〔共〕：〔共通事項〕に係る内容	評 価 と 手 立 て 観 点：評価規準、【評価方法等】
導入 5分	○ 参考作品を見て、どのような材料、方法を使ってよさや美しさを表現しようとしているかを考える。	○ 生徒に分かるように版木にどんな材料を使い、どんな方法でどんな凸凹ができるのか版と刷りの形や色彩などの特徴を比べさせる。〔共〕 ○ 複数の版木で刷り上げた作品が、どの版を何番目に刷ったか理解できるように、資料提示を工夫する。	〔関〕 意欲的に参考作品を見比べている。 【観察・表情・発言】 ◎：刷りと版の関係について見比べながら理解しようとしている。 ◆：どんな材料を使っているか、分かるように版を触らせてみる。
展開 40分	○ 自分の主題にあった材料を見付け、試し刷りをする。 ○ ローラー転写を試しながら、美しい色の重ね方を追求する。	○ どんな版がどのような主題に合っているのか分かるように、版の違いを提示する。 ○ 版の種類によって適切な刷り方ができるように、版の凹凸具合により使用する用具（ばれん、プレス機）の扱いや、ローラーで直接転写する方法など、個に応じたアドバイスをする。	〔発〕 参考作品や友人の制作から自分の作品の主題を見付け出しようとしている 【観察・表現・対話】 ◎：様々な材料を試し、自分の表現に必要な版の種類を探っている。 ◆：友人が刷った作品や参考作品を見せて、ローラー転写を試してみるよう声をかける。
整理 5分	○ 本時の活動を振り返り、自分が感じた版のよさや美しさを発表する。	○ 一人一人の気づきが共有できるように、本時の制作の中で一番気に入った作品を主題によって分かりやすく黒板に掲示する。	〔鑑〕 自分の探した版のよさと友人の版のよさに気づき、発表する。 【観察・表情・発言】 ◎：自分の主題として感じた美しさやよさをとらえている。 ◆：他の人には無いよさや努力をほめて次時への意欲付けをする。

◎：十分満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

### 計画立案のヒント

#### 【表現方法や表現形式について】

- Aの作品は、紙の型紙を使ってステンシルという方法で表現したものである。Bの作品は、ラワンベニヤを利用し、透明感のある重なりをつくっている。Cの作品は、気泡緩衝材の模様の上に紙版画でつくった別の版を重ねている。Dの作品は、プレス機で刷りして翼に凸凹模様をつけ、白い鳥の翼の先にレースの布の模様をローラー転写した半立体作品である。



A 生徒作品《ステンシルで制作》



B 生徒作品  
《ラワンベニヤから蝶を切り抜いて》

#### 【題材の発展性について】

- 写し取る形には様々な版材がある。それらを絵画表現に使うと凹凸が質感に反映される。触った感じがそのまま表現となる。触覚でとらえた作品ともいえるであろう。また、版のもつ特徴として同じ形を何回でも写し取れる。このことを利用すると、デザインや工芸制作に活用できる。焼き物の模様をつける印花などはこれらを美しく構成した版の活用作品である。



C 生徒作品《緩衝材と紙版画》



D 生徒作品《エンボッシング》

指導計画例4

【第1学年】B鑑賞 (1) 身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高める活動

1 題材名 「粋なデザイン」 一日本の伝統模様を学ぶ一

2 題材について

(1) 生徒の実態

中学1年生の3学期は、小学生特有の子どもらしさが抜け、中学生らしい雰囲気になっていく時期である。授業規律も身に付き、題材にしっかり向き合うことができる力が付いてくるので、真剣に表現や鑑賞に取り組むことができるようになる。また、進級を目前にして人間関係を振り返りながら、これからの自分の思いや行動を考える時期でもある。

(2) 本題材を指導するに当たって

日本には、歴史に育まれた素晴らしい文化が受け継がれている。しかし、生活様式が西洋化していることや、情報過多の現代において、その価値に触れる機会が少なくなっている。生徒は小学校5年生で、「私のまわりの日本探し」という題材で、日本人らしさを感じる授業を体験している。本題材ではそれを踏まえて、今まで大切に伝承されてきた創造性の高い匠の技や深い精神性の洗練された美を、素直な気持ちで深く感じ取らせたいと考えている。第1学年の鑑賞では、複数の作品を鑑賞する中で、共通して見られる表現の特性や美意識、価値観などに気付かせ、我が国の美術文化や伝統に対する関心を高めることに重点を置いている。親しみやすい家紋に数多く触れながら、日本人がもつ自然に対する畏敬の念や、デザインに対する工夫を感じ取らせたい。また、比較鑑賞など様々な方法で鑑賞活動ができる機会をつくり、感じ方を広げさせたいと考えている。

3 学習指導要領上の位置付け

B 鑑賞 (1)イ …略

〔共通事項〕

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

4 目標及び評価規準

(1) 目標

日本古来に使われている「家紋」の意味と成り立ちを知り、日本文化の歴史が育んだ完成度の高い伝統模様のよさを感じ取るとともに、相互に鑑賞し合い、多角的な対象の見方や感じ方を広げる。

(2) 評価規準

- 興味をもって鑑賞に取り組み、家紋のよさを感じ取ろうとしている。 (美術への関心・意欲・態度 **関**)
- 伝統を実感的に捉え、その特性や美しさを自分の言葉で表現している。 (鑑賞の能力 **鑑**)

5 本題材の学習 (1時間扱い)

(1) 目標 …略



(2) 準備

- 教師：家紋の掲示用資料、ワークシート、家紋のカード、実際に家紋が使われている写真など
- 生徒：教科書、スケッチブック、筆記用具

(3) 展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点 〔共〕：〔共通事項〕に係る内容	評価と手立て 〔観点〕：評価規準、〔評価方法等〕
題材把握 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を把握する。 1 家紋がもつ意味や役割について考え、その美しさを味わい、そのデザイン・構成力を感じ取る。</li> <li>○ 家紋と聞いて、思い付くものを考える。 1 家紋の歴史的背景を学習する。 2 戦国武将の旗印・兜・着物纏・千社札・印籠などと関連付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意欲をもって鑑賞学習に取り組むことができるように、日本の文化を事前に取り入れた雰囲気を演出する。 〈道徳との関連〉 4-(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。</li> <li>○ 「家紋」を生み出した日本の生活様式や文化が、現代の生活に今も根付いていることを感じ取ることができるよう、時代背景や役割を社会科の歴史学習と関連付けて説明しておく。</li> </ul>	<p><b>関</b> 興味をもって授業に取り組み、真剣に考えようとしている。 【観察・表情】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：関心をもって真剣に話を聞き、考えを巡らせている。</li> <li>◆：興味をもって学習できるように、身近な和風の道具(畳・着物・書道など)や様式(靴脱ぎ・伝統行事など)を紹介する。</li> <li>◆：家紋に気付くことが出来るように、マークやゲームに使用されていることを提示する。</li> </ul>
鑑賞 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家紋の鑑賞をする。 1 家紋カード(15枚程度)を使って各班ごとに家紋を鑑賞する。</li> <li>2 豊かな発想で家紋の形や構成を感じ取り、デザインの特徴を分類する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家紋に親しみがもてるように、有名な家紋を提示をする。</li> <li>○ 日本人がもっている自然に対する畏敬の念や、伝統を受け継いでいく匠の技の素晴らしさを感じ取ることができるよう、カードにして手で鑑賞をさせる。【共】</li> <li>○ 模様・並べ方・形・モチーフなど多岐に渡って分類できるように、カードの振り分け方を事前に調整・配慮しておく</li> </ul>	<p><b>鑑</b> 家紋をじっくり鑑賞し、豊かな発想で分析しようとしている。 【発言・対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：真剣に家紋に向かい、形の良さや構成の特徴やイメージを感じ取るようとしている。</li> <li>◆：楽しく取り組めるように、びっくりするような家紋の提示や説明をする。</li> </ul>



	3 グループ内の話を聞き、意見の交換をする。 4 発表用の画用紙に、分類方法を記入する。	○ 発想の手がかりになるように、場面に応じて家紋の名称を提示する。 ○ 話し合う視点が明確になるように、形やイメージを柱に考えを話し合わせる。【共】	
発表 15分	○ 各グループの発表を聞き分類方法を知る。 	○ スムーズに進行ができるように、発表の手順や台本を確認しておく。 ○ 生徒が語る言葉を生き生きとしたものにするように、そのままを受け止めたり教師の豊かな言葉で励ましたり膨らませたりする。 ○ いろいろな見方や工夫があることを、他の班の発表から感じ取らせる。	
まとめ 5分	○ 多様な分類結果から、日本人のデザインの工夫の技を感じ取る。 ○ ワークシートにまとめを記入し、学習の振り返りをする。	○ デザインの多様性を知ることができるように、他の見方も紹介しておく。 ○ 優れたデザインが時代を超えて受け継がれていることを理解できるように、現在に活かされているデザインの事例を提示する。	

【鑑】 いろいろな分類を知り、様々な考えを受け止めようとしている。  
また、家紋の意味と役割を理解し、形の美しさや構成力を感じ取ろうとしている。【表情・記述】  
◎：家紋を通じて日本文化への興味と敬意をもつことができる。  
◆：文化として受け継がれたことを感じ取れるように、家紋を参考にした生徒になじみのあるデザインを提示する。

◎：十分満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

**指導計画例5** 【第1学年】A表現 (2) 用途や機能、使用する人の気持ち、材料などから美しさを考えながら、見通しをもって表現する活動

1 題材名 「思いを込めて贈ります」 一伝統模様を生かしたコースターづくり

2 題材について

木材のぬくもりに触れると、心は和み気持ちが安らぐ。その木材加工の伝統を、日本人は現代も受け継いでいる。自然の恵みに感謝し手間をかけてつくられた作品は、美術品・日用品・民芸品を問わず力強い。生徒は、前時の家紋の鑑賞授業で日本人がもつ自然に対する畏敬の念を再確認している。そこで、本題材では表現を通じて木材加工の伝統的な彫り方を学び表現することで、古来営々と受け継いできた文化を味わわせたいと考えている。また、この作品は身近な人への贈り物にする。心を込めたデザインを施し贈り物としてのしつらえをすることも、日本人が昔から大切にしてきた行為の一つである。このように本題材を通して、日本の伝統・文化から美意識や創造的な精神を実感し美しさに気付かせたいと考えている。

3 学習指導要領上の位置付け

A 表現(2)ア…略・ウ…略 (3)ア…略・イ…略 B 鑑賞 (1)イ…略

〔共通事項〕

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
- イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

4 目標及び評価規準

(1) 目標 思いやりの心を伝えるデザインを発想し、木材の加工方法の基礎や安全に配慮した技能を身に付ける。

(2) 評価規準

- 豊かな発想・構想を練ったり、意欲的な制作をしようとする。 (美術への関心・意欲・態度 **関**)
- 主題となるイメージをしっかりとらえてデザインする。 (発想や構想の能力 **発**)
- 見通しをもって安全で効率のよい手順で制作し、美しい仕上がりを目指す。 (創造的な技能 **創**)
- 贈り物としての目的を意識して、他者の立場に立った構想・演出をする。 (鑑賞の能力 **鑑**)

5 指導計画 (5時間扱い)

時間	1		②		3		4		5	
過程	着想	鑑賞	発想・構想		制作				鑑賞・まとめ	
学習活動	アイデア スケッチ	相互 鑑賞	彫刻の学習 凹凸の構想	アイデア転写 糸鋸で切断	鉄ヤスリかけ 彫刻	紙ヤスリかけ 砥の粉塗り・塗装			ラッピング 発表会・鑑賞	

6 本時の学習 (本時 2 / 5時)

(1) 目標

- 安全でていねいな制作をするための準備を、進んでしようとしている。 …………… **関**
- 使用しやすく美しいデザインを考え、制作手順の計画を練る。 …………… **発**

(2) 準備

- 教師：家紋の資料、ワークシート、鑑賞授業で使用した家紋の発表用紙、彫刻刀研ぎ機、工作台、コースター用板など
- 生徒：教科書、スケッチブック、筆記用具、定規、コンパス (分度器)、彫刻刀、新聞紙、ビニル袋など

(3) 展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点 (【共】：【共通事項】に係る内容)	評価と手立て 【観点】：評価規準、【評価方法等】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を知る。</li> <li>1 家紋を参考にした、平面的なデザインを、凹凸のある彫刻デザインに変えていく。</li> <li>2 安全面も含めた彫刻刀の使い方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平面的なデザインから、凹凸のあるデザインに変えられるように、コースターの役割について知り、用途を意識して安定性をふまえて発想させる。</li> <li>○ 喜ばれる作品ができるように、美しい仕上げと使いやすさを目指す。</li> </ul>	<p>【関】 新しい課題を理解しようとしている。 【表情】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：意欲的に聞いている。</li> <li>◆：意欲が高まり理解が深まるように、参考作品や作業の手順の掲示などを提示する。</li> </ul>
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な彫刻の手法を学習する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>1 葉研彫りやかまぼこ彫りなどの伝統的な彫り方を学ぶ。</li> <li>2 安全面の留意点を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 線彫りなど、単調なデザインにならないように、基本の彫り方の資料を示しておく。</li> <li>○ コップのすわりが良く、美しい彫りになるように、凹凸を色分けなどして提示する。</li> <li>○ 生徒が安全を常に意識できるように、工作板の使い方や、彫刻刀の正しい持ち方・手の添え方・彫る方向など丁寧に説明し、彫刻刀の状態によって研ぐなどの支援をする。</li> </ul>	<p>【発】 用途と美しさを意識している。 【発言・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：安全面と機能面について十分構想を練り、美しいデザインを生み出す意欲をもっている。</li> <li>◆：バランス良くデザインできるように、彫りすぎた例など失敗例を提示する。</li> </ul> 
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機能と美しさを考えてデザインし、制作計画を立てる。</li> <li>○ デザインを板材に転写する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 美しい仕上がりになるように、定規を使うなど、ていねいな作業が意識できる声かけをする。</li> <li>○ 使う人の気持ちを考えながら形を工夫し、効果的で美しいデザインを考える。 【共】</li> <li>○ 手触り良く使いやすい作品になるように、アイデアスケッチを何枚も描くよう指示する。</li> </ul>	<p>【発】 デザインを工夫し、正しい手順で、計画しようとしている。 【観察・表現】</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：美しい仕上がりを目指した計画を立てようとしている。</li> <li>◆：完成をイメージできるように、彫り見本を触らせる。</li> </ul>
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の活動の振り返りをする。</li> <li>○ 片付けと次時の目標の把握をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き意欲的に制作できるように、次時の授業に必要な用具を把握している。</li> </ul>	

◎：十分満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

計画立案のヒント

**【日本文化の学習について】**

- 紋切り 紋切りは江戸時代から親しまれ、お祭りの屋台でも販売されている。家紋の形は点対称や線対称の形が多く、昭和の初期まで図工の教科書にも掲載されていた。紋切り遊びをすることにより、形の成り立ちや工夫の方法を理解することができ、家紋の形の発想が広がってくる。
- 千社札 千社札の役割と粋な遊び心に親しみ、家紋と組み合わせてみてもよい。千社札のデザインをしたのち、レタリング学習と組み合わせて複合的なデザインの学習につながることもできる。
- 着物柄 着物の文様にも家紋と共通する部分が多いので、系統的に学年を重ねて学習することができる。浮世絵の着物や兜やまといにある家紋と関連付けて鑑賞学習することもできる。
- 葛飾北斎 「北斎漫画」の中に、家紋の図形を毛筆で描いているものがある。  
生徒に、墨と筆で追体験させることで、北斎の素晴らしさを知るとともに、日本文化の研ぎ澄まされた技や匠を感じることができる。



**【制作について】**

- 素材 木彫だけでなく、スチレンボードの重なりで家紋模様を表現したり、彫塑用粘土でペーパーウエイトをつくったり、切り絵で表したものをポップアップカードにすることができる。また、コースターだけでなく、鍋敷きや壁掛けやお盆など自由に選ばせてもよい。複合的な題材として、蔵書印とその外箱のデザインとして家紋を印面・握り・装飾に施すこともできる。
- 用具 道具の正しい使い方によって出る音、木くずの形、彫り跡などを体験的に知ることは、創造的な技能を高める上で必要なことである。

**【安全指導について】**

刃物を使う授業では、教師が教室にいても怪我をすることがあるので、十分な指導と配慮が必要である。工作台の使用方法を徹底する説明資料の提示や、席を離れる場合は刀を箱にしまうなど「刃物使用に関するルール」を事前に決めておくとよい。また、刃物の基礎知識（鉄を鍛えることや、砥石の使い方・さびを防ぐ方法など）を説明しておくこと、道具を大切に扱う意識が高くなる。

生徒のやる気を左右する大切な要因となる切れ味は、常に確認する必要がある。試し彫りができる木材を用意し、彫りにくい場合は研ぐなどの調整をする。また、平刀や切り出しは、小学校では使用しなかった場合もあるので、十分に気を付けて扱うように確認しておく。

1 題材名 私の秘密の場所 ―風景を立体彫刻で表す―

2 題材について

(1) 生徒の実態 …略

(2) 本題材を指導するにあたって

本題材は、題材名にある「秘密」をキーワードとし、居て楽しい、嬉しい、ワクワクするような気持ちになる秘密の場所を立体として表現しようとするものである。また、本題材は第1学年時に体験した具体物（トロフィー）の制作から、情景としての空間を表現することが発展した内容である。生徒が第1学年時よりも、一層表現内容を工夫し、自分の確かなイメージを抱いて制作に励むことを期待したい。

表現の材料は、粘土や木材や針金を主なものとするが、自分の構想に応じて他の材料も使うことができるようにする。大切にしたいのは、自分が表したいものに適した材料や用具を選ぶことができるようにすることと、それを使いこなし表現意図に合った作品をつくることのできるようにすることである。

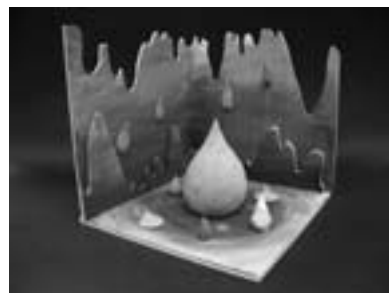
また、第1学年時では行わなかった彩色も積極的に行わせ、イメージをより具体的にさせるとともに、色彩による情景の演出をさせることも貴重な表現の工夫であるとし、推奨するようにする。

指導の工夫としては、次の内容を特に指導する。

- 作家作品や仲間の作品の鑑賞による、意欲付けと、自分の活動の振り返り活動の充実を目指し、表現活動と鑑賞活動をバランス良く取り入れ、自分の制作の足跡が見えるような働きかけとして行う。
- 作品に生徒の主題が明確に表現されるように、アイデアスケッチ、構想図を活用し、日頃の指導で取り組みの意図や課題を語り合うようにする。
- 作品の質の向上につながる知識や道具の使い方の習得や、発想や制作の助けになる知識や技能を、具体的な体験を通して身に付けさせる指導を行う。



生徒作品「真夜中の秘密」



生徒作品「しずくの中の秘密」

3 学習指導要領上の位置付け

A表現(1) …略 イ …略 (3) …略 ア …略 イ …略

〔共通事項〕

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

指導計画の作成と内容の取扱い

- 2(1) (前略) 生徒の学習経験や能力、発達特性等を踏まえ、生徒が表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択して創意工夫して表現できるように(中略)配慮すること。
- 2(3) 主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と希望をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の育成を図るようにすること。

4 目標及び評価規準

(1) 目標 自分の主題が明確に表れる情景彫刻の制作を通して、構想を実現する力や、空間を感じる感性を高める。

(2) 評価規準

- 立体表現に興味や関心をもち、自分の主題を進んで立体表現にしようとする。 (美術への関心・意欲・態度 **関**)
- テーマから発想を豊に膨らませ、その実現のための具体的な構想を練る。 (発想や構想の能力 **発**)
- 構想の実現のために、素材や技法を主体的に選択し、質の高い表現の追求に生かす。 (創造的な技能 **創**)
- 自他の作品から、よさや美しさを感じとり、立体表現に対する価値意識をもつ。 (鑑賞の能力 **鑑**)

5 指導計画 (10時間扱い)

時間	①	2	3	4	5	6	7	8	9	10
過程	着想	発想・構想	制作	(材料選び、本体や部分の加工、組立、彩色など)						鑑賞・まとめ
学習活動	アイデアスケッチをする	構想図をつくる	構想にあった材料選び、加工、組立、彩色を、構想図で確かめながら、計画的に作成する。							発表会・批評会

6 本時の学習 (本時 1/10時)

(1) 目標 題材目的や内容を理解し、アイデアスケッチの活動を通して主題を設定する。 …………… **発**

(2) 準備


- 教師：参考作品、合板、多様な棒材や板材、紙粘土、心材、接着剤、紙ヤスリ、電動糸のこ盤
- 生徒：教科書、アイデアスケッチ、構想図、自分が必要とする材料や画材

(3) 展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点 〔共〕：〔共通事項〕に係る内容	評価と手立て 観点：評価規準、〔評価方法等〕
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     目標 題材「私の秘密の場所」を理解し、テーマに沿った発想や構想を生み出そう！                 </div>		
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材を理解する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマ「私の秘密の場所」について</li> <li>・ 素材や技法について</li> <li>・ 風景・情景の彫刻について</li> <li>・ 参考作品の鑑賞</li> <li>・ アイデアスケッチの重要性</li> </ul> </li> <li>○ アイデアスケッチの要点を知る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まずは自由な発想を出す</li> <li>・ 発想の中から実現可能なものを考察する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材の説明は、板書とプリントを用いて要点を整理して行う。説明は内容が実感として伝わるように参考作品の具体的な箇所と対応させながら行う。また、アイデアが大切であることを参考作品の読み解きを通して実感させる。</li> <li>○ 本時の目標として達成できるように働きかける。多様な発想方法があることを資料を用いながら伝える。</li> </ul>	<p>関 風景（情景）を立体で表現することの魅力や可能性に興味をもつことができている。 【観察・発言・表情】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：参考作品をじっくりと鑑賞するとともにこれからの制作に前向きな姿勢が表れている。</li> <li>◆：本題材でどのような作品がつかれるかを具体的な案で示し、その生徒の興味や関心に近いものを紹介する。</li> </ul>
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 秘密の場所のアイデアをスケッチにまとめる</li> <li>1 テーマから連想するものを書き出す</li> <li>2 連想したものをスケッチに表す</li> <li>3 作品のための構想図をつくる</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>アイデアスケッチ例</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発想が具体化できるように、アイデアスケッチ用のワークシート、構想図のための用紙を準備し配付する。</li> <li>○ 思いついたものはすべて書かせる。この段階では文字でも構わない。</li> <li>○ 言語活動の充実を図るために、イメージを具体化するための資料を参考にすることや、友人との対話を推奨する。スケッチが苦手な生徒には、個別に発想を助ける例を示し、幅広い見方ができるようにする。〔共〕</li> <li>○ 表したいものをさらに具体的に構想図として表すようにする。</li> <li>○ アイデアスケッチをもとに具体的な図案を形や色、必要な材料や画材と合わせて考えるように指導をする。〔共〕</li> </ul>	<p>発 テーマに沿った自分の主題を決め、その実現への構想を具体的な図に説明を加えて描くことができている。 【記述・対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：構想図がしっかりと描かれ、その内容に自信をもっている。内容や材料、今後の計画について説明ができる。</li> <li>◆：主題が決まらない生徒には、テーマから連想される言葉を列記させることなどを手がかりに発想を促す。 構想図が進まない生徒には、視点を変えるヒントを与えたり、制作の見通しをもたせることで、イメージが具体化するように指導する。</li> </ul> <p>発 自他のスケッチや構想図を参照して、自分の発想の課題を見付けることができている。 【発言・記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：次時の制作に向けての課題を明確にもっている。</li> <li>◆：やるべきことをチェックリストで示し、自分の課題が見えるようにさせる。</li> </ul>
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他のアイデアスケッチや構想図を鑑賞するとともに活動の振り返りをする。</li> <li>○ 次時の授業の準備を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の活動の成果がよくわかるスケッチや構想図を紹介し各自の振り返りの指針とする。</li> <li>○ 紹介では、形や色彩がイメージを表すのに、どのように生かされているかを説明する。〔共〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎：十分満足できる状況</li> <li>◆：C判断生徒への手立て</li> </ul>

◎：十分満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

計画立案のヒント

<p><b>【表現方法や表現形式について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現しやすいものを表現するのではなく、表現したいことに合わせて、材料や表現方法を工夫するという思考が大切である。アイデアスケッチや構想図から生徒の思いを読み取るとともに、相談的な対応を通して生徒が自分の思いを自覚するように働きかけ、自分の思いが実現できるように励ます指導を積極的に行う。</li> <li>○ テーマが広いだけに、最初の条件付けが大切である。話や板書だけでなくプリントを使って、内容、材料、大きさ等の条件を明確にしておきたい。</li> </ul> <p><b>【材料や用具について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 汎用性があり、造形の基礎材となる物（木材、粘土、芯材）は学校で準備しておく。それ以外の生徒が使いたい材料は自由に選択して持参させてもよいが、造形が楽であるとか、見た目が綺麗だからなど、安易にならないよう十分に指導をする。</li> <li>○ 材料が自分の表現に適切かどうかは、比較資料を使って自ら気付くように指導をする。</li> </ul> <p><b>【題材の発展性について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボックスアートとして行うことが可能である。また、インスタレーションとして同じ手法で部屋を飾ることも可能である。</li> <li>○ 動力や照明を取り入れることも可能だが、造形の基礎的な内容を学び、それを発揮することに重点をおきたい。</li> </ul> <p><b>【〔共通事項〕の指導について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各所の鑑賞の活動において、形や色彩、受ける印象（イメージ）を視点に味わわせることで、作品の造形的な魅力が一層味わえると思う。</li> <li>○ 自分の思いを作品を通して伝えるために、形や色彩を工夫することが、〔共通事項〕の指導につながると考える。</li> </ul>	 <p>生徒作品「ボックスアート」</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**指導計画例7** 【第2学年】A表現 (2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに共同で表現する活動

**1 題材名** 「みんなで学校を彩ろう！」－共同で行う創造活動－

**2 題材について**

(1) 生徒の実態 …略

(2) 本題材を指導するに当たって

美術の表現活動は、自分の思いを形に表すことができること、行事等では会場を飾ることで、雰囲気をつくり出しムードを盛り上げることができることを指導してきた。生徒は入学時、装飾が施された新入生歓迎会で上級生に迎えられた。また、昨年度の3年生を送る会では、2年生と共に会のための装飾をつくり、3年生へ合唱のプレゼントをするなど会を盛り上げた。いよいよ今回の3年生を送る会は、上級生としてリーダーシップを発揮する時である。3年生を送る会実行委員会を中心に、感動的な会となるよう張り切っている。この会では、ステージに2学年の生徒全員による「ちぎり絵」の壁画を制作する。また、体育館全体を、在校生全員で制作した作品で装飾する。実行委員会を中心に話し合い、全員で協力して制作することで、個人制作では味わうことができない満足感を味わうことができる。また、体育館全体をキャンパスとして創りだすスケールの大きさ、3年生に喜んでもらうことを目的とした活動は、生徒一人一人の思い出として心に残る。美術の素晴らしさと楽しさを味わうことができる題材である。



**3 学習指導要領上の位置付け**

A 表現(2)…略 ア…略 イ…略 (3)…略 ア…略 イ…略

B 鑑賞(1)…略 ア…略 イ…略

〔共通事項〕

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

指導計画の作成と内容の取扱い

2(4) 互いの個性を生かし合い協力して創造する喜びを味わわせるため、適切な機会を選び共同で行う創造活動を経験させること。(後略)

**4 目標及び評価規準**

(1) 目標 3年生を送る会を盛り上げるため、在校生全員の協力で壁画、装飾をつくる。

(2) 評価規準

- 3年生への感謝の気持ちをもち、友人と協力して意欲的に制作に取り組もうとする。(美術への関心・意欲・態度 **関**)
- 会場の雰囲気を考え、形や色彩を工夫してアイデアを練る。(発想や構想の能力 **発**)
- 和紙を使ったちぎり絵の技法を生かし、配色を工夫して制作する。(創造的な技能 **創**)
- 作品が完成した喜びを味わい、主体的にそのよさを味わう。(鑑賞の能力 **鑑**)

**5 指導計画 (5時間扱い)**

時間	①	②	③	④	⑤
過程	発想	制作			鑑賞・まとめ
学習活動	アイデアスケッチをする 壁画、全体装飾	各班の分担場所に、和紙をちぎり貼り付けていく 色彩の効果を工夫し、完成を目指す 全校生徒での装飾の個人作品づくり (飛び立つ鳥、ポプラの葉)			意見発表・ 活動の振り返り

※ アイデア決定、壁画用紙への下がり、全体での仕上げは、放課後に実行委員が行う。

**6 本題材の学習**

(1) 目標…略

(2) 準備

- 教師：和紙、模造紙 (18枚)、のり、フェルトペン、粘着テープ、アイデアスケッチプリント
- 生徒：教科書、資料集、色鉛筆

(3) 展開 (※共同で行う創造活動のため、題材全体の展開を示す。)

過程時間	学習活動	指導上の留意点 (〔共〕：〔共通事項〕に係る内容)	評価と手立て 〔観点〕：評価規準、〔評価方法等〕
発想 1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年生への感謝の気持ちをもち、会を盛り上げる壁画のデザイン、会場全体の装飾のデザインのアアイデアスケッチをする。</li> <li>① ステージを飾る壁画デザイン</li> <li>② 会場全体を飾る装飾デザイン</li> </ul> <p>※ 実行委員の壁画担当は、壁画デザインを決定し、下がりを進める。</p> <p>実行委員の下がり制作</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「3年生を送る会」実行委員の方針やテーマをもとに、3年生への感謝の気持ちが伝えられるよう、3年生にお世話になった時の気持ちを思い出させながら、デザインを考えさせる。</li> <li>○ 上手に描こうと身構えず、落書きの延長として思いを形にさせる指導をする。</li> <li>○ 配色や構成の工夫例を過去の具体例を示し、会を盛り上げるための空間のデザイン (形)、色彩による演出を工夫させる。〔共〕</li> <li>※ 実行委員には、共同で行うちぎり絵の表現にふさわしいデザインを考えるよう指導し、壁画・会場装飾のデザインを決定させる。</li> <li>※ 実行委員を中心にして制作を進め、美術科として技術的な支援を進める。</li> </ul>	<p>〔関〕 感謝の気持ちを伝えられるよう、イメージを膨らまし、意欲的に取り組んでいる。〔観察・表情〕</p> <p>◎：思いを形にするよう、アイデアスケッチに真剣に取り組んでいる。</p> <p>◆：上手に描くのではなく、アイデアを形にすることが大切なことを伝える。</p> <p>〔発〕 壁画デザインでは構図や配色を、会場装飾では光や色、形を意識した空間構成を工夫している。会にふさわしい雰囲気をつくり出すデザインをしている。〔表現・作品〕</p> <p>◎：画面に登場するモチーフや場面を考え、構図や配色等を工夫した画面構成を工夫して描いている。</p> <p>◆：資料を活用させたり、説明の言葉で補わせたりして、アイデアを形にさせる。</p>

<p>制作 3時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学級の生活班に壁画を分割、分担して貼り絵を進める。</li> <li>○ 各班では分担された部分に細かくちぎった和紙を貼り、画面をつくり出していく。</li> <li>※ 制作の手順や注意事項、工夫して欲しいところなどの説明は、実行委員が行う。</li> </ul>  <p>班ごとに和紙を貼っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 実行委員は、各班の作品を貼り合わせ、全体のバランスを考えながら作品を完成させる。</li> <li>○ 会場装飾の個人分担の作品（飛び立つ鳥・メッセージの入ったポプラの葉）を制作する。</li> <li>※ 実行委員の会場装飾担当は材料を準備し制作の説明を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 分割された壁画のそれぞれの部位のイメージがつかめるよう、全学級に完成予想図を配付して、自分たちの分担でどんな工夫ができるか考えられるようにしておく。</li> <li>○ どのように和紙をちぎり、貼っていくのが美しいかを考えさせ、実行委員や学級委員を中心に気持ちのこもった創造活動を進めるよう指導する。</li> <li>○ 和紙を使った貼り絵は、絵の具を使った色彩表現のように色の数がない。限られた色数でどのように表現するか、点描表現を参考に指導していく。自由に混色した多くの色を使った絵画とは違った貼り絵のよさを理解させ、制作できるようにアドバイスする。</li> <li>○ 3時間目の初めには、他のクラスの工夫された作品を鑑賞させ、制作の意欲を高めるよう指導する。</li> <li>○ 和紙のよさと点描表現の色彩の美しさを、友人と共に作り出す表現活動を通して理解させる。【共】</li> <li>○ 会場装飾の全体イメージをつかませて、自分の作る個人作品の意味を理解させることが重要である。個人分担の作品がどのように3年生に見られるかを考え、気持ちを含めた制作をさせる。</li> </ul>	<p>創 完成画面を予想し、貼り絵のよさを生かす工夫をしながら、和紙を貼る制作をしている。【観察・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：点描表現など技法を工夫し、班の友人と協力しながら制作している。</li> <li>◆：ていねいな制作、工夫された制作の大切さを、過去の作品を見せながら指導する。</li> </ul>  <p>飛び立つ鳥 ※新入生歓迎会でも使用。</p> <p>創 限られた条件の中で、形や色彩を工夫し、材料や道具をうまく使いながら制作している。【表現・作品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：全体の中での個の分担を理解し、自分らしさを発揮して形や色彩を工夫している。</li> <li>◆：みんなの形が集まったときの美しさを理解させ、形や色彩の工夫例を提示して指導する。</li> </ul>
<p>鑑賞 まとめ 1時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 印刷した壁画の写真をシラバスに貼り付け、3年生を送る会の会場を思い出しながら、壁画・会場装飾の鑑賞を行う。</li> <li>○ 作品から感じたこと、制作への思い等の感想を、「鑑賞プリント」に記入する。</li> <li>○ それぞれの思いを発表し、感じ方の相違に気付きながら、鑑賞を深めていく。</li> <li>○ 行事における美術の役割、環境に関わる美術の力について、教科書の作品から考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共同で行う創造活動の作品は各自で持ち帰ることができないため、写真に撮って学習ノートに貼り付け思い出に残す取組を通して、作品を大切に思いを育てる。</li> <li>○ 鑑賞を難しくとらえさせず、思い付いた気持ちで書いたことを、楽な気持ちでたくさん書けるように指導していく。</li> <li>○ 鑑賞会の発表を通して、自分と違った見方や感じ方、思いがあることに気付き、鑑賞を深めることができるよう指導する。</li> <li>○ 来年度、最上級生として取り組む文化祭や体育祭につなげていく。</li> </ul>	<p>鑑 鑑賞プリントに感じたことや考えたことを記入し、自分の思いを発表している。【観察・発言・記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎：感じたことをプリントにたくさん書いている。友人の思いを聞き、自分の思いとの相違点を感じながら鑑賞を深めている。</li> <li>◆：鑑賞のスタートは気付くことである。些細なことでもいいから感じたことをプリントに書き、発表するよう支援する。また、その発表を評価する。</li> </ul>

◎：十分満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

計画立案のヒント

【共同で行う創造活動の系統的な指導について】

美術には、空間や場の雰囲気を盛り上げたり、楽しくしたりする力がある。学校行事や普段の生活の中で美術の取組の場面をつくり、学校生活には美術の活動が切り離せないものとした。各クラスでの掲示物づくり等も美術の取組であることを教え、学活での活動の際も、ただ制作させるのではなく、場の雰囲気をつくり出す大切なものであることを生徒に理解させるとともに、他の教員にも協力が得られるように働きかけたい。

第1学年での教室の壁画づくりは、3年間の環境をつくり出す共同で行う創造活動の導入といえる。そして、全学年で作成する応援看板の作成、文化祭での会場装飾、3年生を送る会での壁画作成・会場装飾、新入生歓迎会の装飾へとつながっていく。

- 「教室をアートしよう」第1学年（6時間扱い）
  - 第1学年の4月、クラスの全員で協力して、教室の背面を飾る壁画を作成する。表現方法や材料は特定せず、自分が小学校時代に体験したことをもとに、自由に表現させる。それぞれの違った表現が集まって完成する素晴らしさに気付かせ、表現のよさの多様性を理解させる。
  - (1) 1年間生活する教室を、どのような壁画で飾るかイメージを考え、アイデアスケッチを描く。
  - (2) アイデアを決定し、制作分担を決める。
  - (3) 表現方法や材料を工夫し、制作を進める。
  - (4) 完成した作品を教室に飾り、鑑賞会を行う。
- 「体育祭を盛り上げよう」全学年 各クラスでの取組
 

体育祭では、各クラスが応援看板をつくり、応援席にその看板を飾って盛り上げている。学活の時間に全員でアイデアを考え、そのアイデアをもとに実行委員が中心になって、看板を制作していく。どのクラスも、第1学年の入学当初に「教室をアートしよう」の経験をもとに、材料や表現方法を工夫した応援看板を完成させ、体育祭後は、教室に飾ると効果的である。



第1学年 「教室をアートしよう」 100×480cm



全校全クラスが作成「体育祭の応援看板」 45×180cm

**指導計画例8** 【第3学年】A表現 (2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、発想や構想したことを基に、デザインなどに表現する活動

**1 題材名** 「みんなに伝えよう」－修学旅行記－

**2 題材について**

- (1) 生徒の実態 …略  
 (2) 本題材を指導するに当たって  
 本題材は、日本の文化遺産に触れ、中学校生活で一番の思い出となる行事である。友人との貴重な体験や修学旅行の思い出や感動を「修学旅行記」として人に伝えることの喜びを味わわせるものである。  
 自分の思いや考えを明瞭に相手に伝えるために、今まで学習してきた様々な表現方法を活用し、個性あふれる作品に仕上げさせたい。本題材は、2時間扱いとし、修学旅行をテーマに探究的な学習を行う総合的な学習の時間と連携を図りながら進める。美術の授業として、総合的な学習の時間で準備をした写真や資料などを材料として活用し、「修学旅行記」の制作を行うものである。1・2年生で学んだ形や色彩、材料などの特性を基に、分かりやすさや美しさを考え「修学旅行記」として人に伝えることを意識させ、自分の表現意図に合う独創的な表現を工夫させたい。  
 また、生徒の写真や作品を使用することをもあり、著作権や人権にかかわる情報モラルについても学習する機会としたい。

**3 学習指導要領上の位置付け**

- A表現(2)ア …略 イ …略  
 (3)ア …略 イ …略  
 B鑑賞(1)ア …略 イ …略  
 [共通事項]

- ア 形や色彩、材料、光などの性質やそれらがもたらす感情を理解すること。  
 イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

指導計画の作成と内容の取扱い

- 2(1) (前略) 生徒の学習経験や能力、発達特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択し創意工夫して表現できるように (中略) すること。  
 2(5) (著作権や人権にかかわる情報モラルの学習や) 美術に関する知的財産権や肖像権などについて配慮し、自己や他者の創造物等を尊重する態度の形成を図るようにすること。

**4 目標及び評価規準**

- (1) 目標 修学旅行での写真や資料を基に、そこでの体験や感動が見る人に伝わるような「修学旅行記」を制作する。  
 (2) 評価規準  
 ○ 自分の表現意図に合わせ、意欲的に取り組もうとしている。 (美術への関心・意欲・態度 関)  
 ○ 写真やイラストレーション、漫画などの素材を効果的に活用し、自分の思いを表現する。 (創造的な技能 創)  
 ○ 作者の思いを感じ取り、主体的にそのよさを味わう。 (鑑賞の能力 鑑)

**5 指導計画 (2時間扱い)**

時間	①		2	
過程	導入	制作	制作	鑑賞・まとめ
学習活動	課題把握	イラストレーション、写真、漫画、文章などの素材を組み合わせて表す		鑑賞会活動の振り返り



**6 本時の学習 (本時 1 / 2時)**

- (1) 目標  
 ○ イラストレーション、写真、漫画、文章などの素材を組み合わせ、「修学旅行記」として自分の思い出、感動場面を表現する。 …………… 創
- (2) 準備  
 ○ 教師：画用紙、ロール紙、色画用紙など  
 ○ 生徒：教科書、資料集、自分が必要とする材料や画材 (写真、イラストレーション、漫画、修学旅行新聞、筆記用具、ポスターカラー、はさみ、のりなど)
- (3) 展開



絵巻物にした作品

過程時間	学習活動	指導上の留意点 (【共】：【共通事項】に係わる内容)	評価と手立て 【観点】：評価規準、【評価方法等】
導入 5分	○ 総合的な学習の時間で準備した資料などを活用し、「修学旅行記」を制作する活動内容を把握する。 ・参考作品を見て、作者の思いを考えるとともに、多様な表現方法等があることを知る。	○ 意図に応じて表現方法を工夫できるように、様々な表し方をしている参考作品を示しながら構想を促す。 ・冊子や絵巻など多様な表現形式があることを理解させる。 (道徳との関連) 4－(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。	【関】 意欲的に授業に取り組んでいる。 【観察・表情・発言】 ◎：真剣に考え発言している。 ◆：参考作品や資料を用意し、興味をもって取り組めるようにする。

<p>展開 40分</p>	<p>○ 素材を厳選し、計画的に作業を行う。</p> <p>1 下がり アイデアスケッチなどの構想図を下がきする。</p> <p>2 素材の加工・貼り付け 自分の思い出や感動を表現できるように、素材を効果的に加工し貼り付ける。</p> <p>3 着色など 効果的に彩色やレタリング、文章などを加え、自分の思いを表現する。</p>	<p>○ 用意した資料や素材などを組み合わせ、自分の思いを分かりやすく伝えるために、形や色彩がもたらす効果を考え構成させる。</p> <p><b>【共】</b></p> <p>・生徒の自分の思いや考えを明確にさせるため、机間指導を行い問いかける。</p>  <p>冊子にした作品</p>	<p><b>【創】</b> 自分の思いに合った表現方法を見つけ、制作の見通しを立て主体的に取り組んでいる。</p> <p><b>【表情・表現・作品】</b></p> <p>◎：資料や素材を組み合わせ、自分の思いを表現している。</p> <p>◆：分かりやすさや美しさを考えた構成ができるよう参考作品を見せ声かけを行う。</p> 
<p>整理 5分</p>	<p>○ 本時の活動を振り返り、互いの作品を鑑賞し、よさを味わう。</p> <p>○ 次時の確認を行う。</p>	<p>○ 互いに鑑賞し合い、よさを味わえるよう、少人数のグループでの活動を指示する。</p>	<p><b>【創】</b> 自らを振り返り、互いの作品を鑑賞し、よさを味わおうとしている。【観察・表情・発表】</p> <p>◎：自他の作品を通し、美しさやよさをとらえている。</p> <p>◆：他者の作品を参考にし、次時への意欲付けをする。</p>

◎：十分満足できる状況      ◆：C判断生徒への手立て

### 計画立案のヒント

#### 【題材の発展性について】

- 「修学旅行記」を充実させるためには、「願いを表す形ー日本の仏像ー」題材を修学旅行と関連付けることで、修学旅行への関心や動機付けを高めていくことができる。
- 事前学習から事後のまとめまでを、修学旅行の行動（活動）班で取り組むなど、共同で行う創造活動とすることも可能である。共同で行うことにより、写真や、コンピュータを活用した短編アニメーションの制作やプレゼンテーションソフトによる発表など、より質を高めた作品や発表会も可能となる。
- 修学旅行の探究的な学習の成果をまとめた資料の表紙を作成する題材も考えられる。コラージュなどのモダンテクニックを取り入れることで、短時間で効果的な表現も可能である。



コラージュを取り入れた表紙絵



コラージュと描画を組み合わせた表紙絵



#### 【参考：情報モラルの学習について】

- (1) 美術と著作権  
著作権は、プロやアマに関わらず、その人が作品をつくった時に自動的に生まれ、生徒作品も立派な「著作物」になる。美術作品は作家が生存しているときはもちろん、作家が亡くなったあとも50年間は著作権によって作品は守られ、作家の遺族の方にも著作権は相続される。また、美術や写真の原作品の「所有権」を取得した者は、自由に著作物を展示することができる。屋外への恒常的な設置については、所有権者といえども著作権者の承諾が必要になる。
- (2) 授業における美術の著作物の利用  
美術鑑賞の教育指導をするために、美術の著作物を複製することはできるが、高品質のカラーコピー等を個々の生徒に配付することはできない。ただし、屋外に恒常的に設置されている美術の著作物、及び建築の著作物については、権利者の利益を侵害するおそれの高い一定の利用行為を除いて自由に利用できる。
- (3) 生徒作品等の利用  
児童生徒の作品を展示する場合には、本人の了解を得ることが肝要である。また、児童生徒の映像の活用については、撮影者の許諾があれば著作権上の問題はないが、肖像権を尊重するとともに、児童生徒が被害者となる事件の動機とならないよう配慮していく必要がある。
- (4) キャラクターの利用  
漫画のキャラクターは、学校等の教育機関で教育担当者又は児童生徒などがその授業の過程における使用を目的とする場合に複製はできるが、文化祭や体育祭等で漫画のキャラクター顔や姿態を描くことは、美術の著作物として保護されており、漫画の著作者の複製権が働くことになる。したがって、法的には権利者の許諾を得る必要があるため、注意する必要がある。



1 題材名 「環境のデザイン」－未来に向けた創造－

2 題材について

(1) 生徒の実態 …略

(2) 本題材を指導するに当たって

生徒たちは、第1学年時に季節の色から色彩について学び、日本の伝統模様から日本美術と生活のかかわりについて学んだ。第2学年では、日本の絵画、彫刻、建築作品の鑑賞を通して日本美術の魅力について学び、西洋に影響を与えた浮世絵と印象派の作品を比較しながら、海外の美術作品にも触れることができた。

本題材は、私たちが生活する空間・環境での美術の役割について学ぶものである。生徒たちは、修学旅行での龍安寺の枯山水庭園、銀閣寺や金閣寺での日本庭園を訪れ、素敵な環境の中で心を落ち着かせた体験をもっている。ここでは、ガウディのグエル公園、ベルサイユ宮殿の庭園等、西洋の環境デザインについて学び、日本庭園と比較していく。

また、現代作家であるクリストの作品や荒川修作の「養老天命反転地」、様々な美術展覧会等でのインスタレーション(場所や空間全体を作品として構成する芸術)などの作品の鑑賞を通して、作家が環境に働きかける思いを読み取ってきたい。さらに、アメリカと日本との狭間で悩みながら、日本の自然の素晴らしさを表現した「イサム・ノグチ」にスポットをあて、鑑賞の学習を深めていく。環境を創出する美術が、生活に潤いをもたらし、心を豊かにする素晴らしいものであることを学ぶことができる題材である。

3 学習指導要領上の位置付け

B鑑賞(2)…略 ア…略 イ…略 ウ…略

【共通事項】

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

4 目標及び評価規準

(1) 目標 環境とデザインについて興味や関心をもち、生活を豊かにする美術の働きについて理解するとともに、作者の思いを感じ取り、日本や諸外国の美術文化のよさを味わう。

(2) 評価規準

- 環境とデザインについて興味や関心をもち、鑑賞活動に意欲的に取り組もうとする。(美術への関心・意欲・態度 関)
- 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって幅広く味わう。(鑑賞の能力 鑑)
- 生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解する。(鑑賞の能力 鑑)

5 指導計画 (1時間扱い)

- (1) 環境デザインに関する作品を鑑賞して、本時の授業への興味や関心を深める。 15分
- (2) 「モエレ沼公園」のモニュメントや施設を鑑賞し、そこから受けるイメージを話し合う。 15分
- (3) イサム・ノグチの人生を知り、「イサム家の居間と内庭」を鑑賞し、話し合う。 15分
- (4) 今日の授業を振り返り、本時の学習をまとめる。 5分

6 本時の学習 (本時 1 / 1時)



(1) 目標 …略

(2) 準備

○ 教師：プロジェクタ、コンピュータ、鑑賞作品、鑑賞プリント




○ 生徒：教科書、資料集

(3) 展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点 (【共】：【共通事項】に係る内容)	評価と手立て 【観点】：評価規準、【評価方法等】
導入 15分	<p>○ プロジェクタで映し出される作品を鑑賞し、環境デザイン作品への興味関心を深め、空間や作者の思いを感じ取る。</p> <p>1 日本の心 ・龍安寺等の枯山水庭園 ・銀閣寺、金閣寺等の日本庭園 ・京都西陣等の街並み</p> <p>2 西洋の心 ・ベルサイユ宮殿等の西洋庭園 ・アールヌーボー、アールデコ ・ガウディのグエル公園等</p> <p>3 現代美術 ・荒川修作「養老天命反転地」など ・クリスト、クロードの作品 ・インスタレーションの作品</p> 	<p>○ 空間と作者の思いを意識できるように作品を大きく提示し、見る視点を示す。</p> <p>○ 修学旅行での体験を思い出せるように、エピソードなどを発表させる。</p> <p>○ 日本と西洋の環境美術の違いについて感じ取ることができるよう、空間に存在する形や色彩がもたらす感情を理解させ、イサム・ノグチの作品へと迫る伏線とする。【共】</p> <p>○ 作家の環境への思いを理解できるように、その場を変える創作、人間の身体へ働きかける創作等、現代美術の面白さを理解させる。</p>	<p>【関】 環境デザインの鑑賞に興味をもち、意欲的に活動している。</p> <p>【観察・表現・発言】</p> <p>◎：各作品の空間を意識し、作者の思いを感じながら、主体的に鑑賞を行っている。</p> <p>◆：各作品の面白いエピソードを取り上げ、意欲的に鑑賞活動ができるように工夫する。</p> 

荒川修作「養老天命反転地」  
身体に働きかける空間

銀閣寺

鑑賞 30分	<p>○ 「モエレ沼公園」のモニュメントや施設を鑑賞し、そこから受けるイメージやその作品への作者の思いを考え、話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガラスのピラミッド</li> <li>2 海の噴水 〈噴水のプログラム〉 ・ピックワン ・ピックウエーブ ・フォッグ ・アーチ</li> <li>3 サクラの森</li> <li>4 モエレビーチ</li> <li>5 プレイマウンテン</li> <li>6 テトラマウンド</li> <li>7 ミュージックシェル</li> <li>8 アクアプラザ</li> <li>9 モエレ山</li> </ol>  <p>噴水プログラム</p> <p>○ モニュメントや施設の中から二か所を選び、感じたことや考えたことをプリントに記入する。</p> <p>○ 班で話し合い、全体に発表する。</p>	<p>○ 自由な発想で鑑賞させ、感じたことを発表できるように、それぞれのモニュメントや施設をプロジェクトで大きく映し出す。</p> <p>○ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえることができるよう、鑑賞を深める上でヒントとなる事柄を説明しながら見せていく。【共】</p> <p>○ 「海の噴水」では、「ダイナミックな水の動勢は生命の誕生や宇宙を表現し、公園全体に生命の息吹を与える」ことを感じ取ることができるよう、噴水のプログラムも紹介する。</p> <p>○ イサム・ノグチが自然とかかわる思いを理解できるように、この公園に集う人々（子どもたち）の様子も見せる。</p>  <p>ミュージックシェル</p>	<p>鑑 ー モニュメントや施設の形、色彩を意識し、作者の思いを感じながら、主体的に鑑賞を行っている。 【観察・記述・発言】</p> <p>◎：公園の中に身を置くような意識で作品や作者の心情、意図を感じ取り、自分の言葉で感じ取ったことを発表する。</p> <p>◆：どのようなことでもよいから気が付いたこと、感じたことを発表できるように促す。</p>  <p>テトラマウンド</p>
	<p>○ イサム・ノグチの人生を知り、「イサム家の居間と内庭」を鑑賞し、話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アメリカ生まれ</li> <li>2 母はアメリカ人、父は日本人</li> <li>3 非嫡出子としての運命</li> <li>4 日本での自然の中での生活 ハーフへの差別</li> <li>5 アメリカでの生活（真珠湾攻撃） 戦争と収容所生活</li> <li>6 戦後の日本</li> <li>7 光の彫刻「あかり」</li> <li>8 庭園芸術</li> </ol>	<p>○ 作者がどのような思いで人生を送ったのか考えることができるよう、イサム・ノグチの写真、真珠湾攻撃の写真、「あかり」作品の写真などをプロジェクトで映し出しながら解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本とアメリカの狭間で苦しんだ作者は、どんなことを思い、考えたのか、作品を通して考えさせる。</li> <li>・ なぜ日本を意識した照明や庭園作品をつくったのかについて、作者の人生と照らし合わせて考えさせる。</li> </ul>	<p>鑑 ー 作者の人生や思いを感じながら、主体的に鑑賞を行っている。 【観察・記述・発言】</p> <p>◎：作者の心情や意図を感じ取り、そこから生まれる創造的な表現について考え、自分の価値意識をもって幅広く味わおうとしている。</p> <p>◆：感想をもてない生徒には友人の意見を参考にして考えさせる。</p>
まとめ 5分	<p>○ 作者の人生と作品から感じた思いをもとに、「モエレ沼公園」について再度考える。</p> <p>○ 本時の授業で考えたこと、思ったことを学習カードに記入し、授業のまとめを行う。</p>	<p>○ 身近な空間の美しさや芸術に目を向けることの素晴らしさに気付くことができるよう、本時の学習内容を自分なりに振り返る時間を設ける。</p>	<p>鑑 ー 生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解しようとしている。 【記述】</p> <p>◎：身の回りの自然の美しさ、環境彫刻に思いを向け、考えている。</p> <p>◆：駅前や校内にある彫刻の紹介をして、身の回りの美を意識させる。</p>

◎：十分満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

## 計画立案のヒント

### 【題材の発展性について】

○ 「現代美術に挑戦！」－新聞紙をつなごう－（鑑賞・表現の複合題材）

#### 1 題材について

この題材は、現代美術を、表現活動を通して理解し味わおうとするものである。現代美術には、環境や身体に働きかける作品が多い。現代美術の作品について、鑑賞活動とともに、実際に「新聞紙をつなごう」という簡単な表現活動を通して空間を変えていくことによって、美術がもっている環境をよりよく変える力や素晴らしさを理解させる題材である。

#### 2 目標

- ・ 現代美術の面白さを理解しよう。
- ・ 新聞紙をつなげる活動を通して、自分のイメージを膨らませ、新たなかたちと意味をつくり出そう。
- ・ 作品を鑑賞し、感じたことを自分の言葉で表現しよう。

#### 3 展開

- (1) 導入 環境や空間全体を作品として表すインスタレーションについて興味をもち、理解する。
- (2) 展開 班で協力し、新聞紙をつなげていく。  
表現方法を工夫し、空間（新たな「かたち」と意味）をつくり出していく。  
つなげられていく「かたち」から生まれるイメージを感じ、さらに「かたち」をつくり出す。
- (3) 整理 生まれ出た「かたち」を鑑賞する。  
好きな「かたち」、空間を鑑賞し、自分が感じたことを、自由な言葉で鑑賞プリントに書き込んでいく。  
感じたことを発表し合う。



「新聞紙をつなごう」鑑賞会